



Series
医学部受験対談

受験生の親子が語る
医学部
合格体験

「昨今の厳しい医学部受験を乗り越えるためには、子どもが、自分はこんな医師になりたいという目的意識をしっかりと持てるように、常日頃から親の思いを伝えることが大切で、そのことを親子で語り合う機会を幼い頃から頻繁に作ることだと思います。」と、父親から受け継いだ内田病院を大きく発展させ、慢性期医療と地域のまちづくりに尽力している医療法人大誠会 理事長の田中志子氏は語ります。今回の対談では、母親の田中志子氏とメデュカパスの田村校長にご本人を交えた鼎談形式で、田中妃那子さんの医学部受験を振り返って頂きました。

娘に親の思いをしっかりと伝え、
常に語り合い続けることが、
医学部受験を乗り越える
大きな原動力となりました。

幼稚園の頃から医師になりたい
と言っていました。

妃那子さん 私は医学部を目指した動機とは、母親がやりがいを持って仕事をしている姿をいつも身近で見えていて、そんな医師の仕事にアコがれていたからです。

田中氏 病院と自宅が隣接していて、仕事と家庭の境目がないような生活でしたので、子供達は医師の仕事の大変さも苦労も全て見て育ちました。

長女の妃那子は、物心がついた頃から下の弟妹の面倒を見てくれ、仕事で忙しい私を支えてくれました。そんな妃那子は幼いころからずっと医師になりたいと言っていました。

妃那子さん たぶん幼稚園の頃から、医師になりたいと言っていたと思います。

田中氏 本当に幼稚園の頃からずっと言っていましたね。それは一度も変わらなかったです。

田村氏 妃那子さんは、お母さまの仕事を身近に見ていて、医師の仕事は大変そうだなと思われたことはありませんでしたか。

妃那子さん 夜中とかに病院から呼ばれている姿を見ていたりしたので、たしかに医師の仕事は大変だと思っていました。

でも、それだけ責任のある、人のために役立つ尊い仕事なのだなとも思っていました。

私立医学部専門予備校という
選択肢

妃那子さん 現役時代から医学部受験を目指し、高校1年から地元の大手予備校に通っていました。

しかし最初から私立医学部を目指していた私には、そこでの授業が合っていませんでした。何をどう勉強したら良いのか全く分からずに3年間が終わってしまいました。

メデュカパスに入学してみても、初めて医学部受験の勉強法を学んだ気がしました。

田中氏 医学部受験は情報戦ですね。私たちの頃は受験事情が全く違って